

平成29年産 普通期水稻育苗情報

平成29年4月
北筑前普及指導センター
J A む な か た

床土の準備

①黒粒培土の場合

- ・床土 2.5kg+覆土 1kg が目安。
- ・昨年開封した残りは使用しない(カビ等が発生しやすい)。

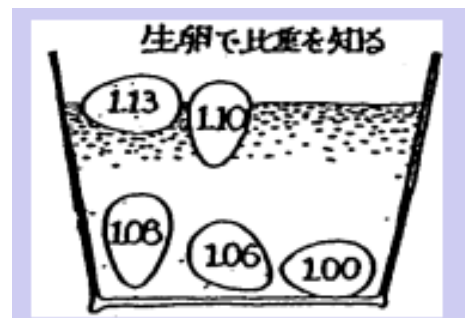
②山土の場合

- ・pHが 5.0~6.5 (5.0~5.5 が望ましい)のものに、籾殻くん炭を容積比で3割程度混ぜる。
- ・1箱当たり4~5ℓ準備し、播種1週間前に育苗肥料 4-4-4 を1箱当たり 25g(500g/20箱)よく混ぜる。
- ・休耕田や紋枯病多発田、畑作後の土は使用しない。

塩水選

- ・浮き籾が多い場合は、塩水濃度を比重 1.08 まで薄めても問題ない。(うるちの場合)
- ・塩水選が終わったら、よく水洗いする。

比重	水 10ℓ に溶かす量	
	食塩	硫安
1.08 (もち)	1.11kg	1.46kg
1.10 (うるち)	1.42kg	1.92kg
1.13 (うるち)	1.94kg	2.68kg



※ちなみに海水の比重は 1.03 です

種子消毒

- ・下記の2つの薬剤混用で、24時間浸漬する。

農薬名	種子	希釈水量	薬量	倍率
テクリードCフロアブル	10kg の場合	20ℓ	100 ml	200 倍
スミチオン乳剤			20 ml	1000 倍

- ◎種子消毒後は軽く薬液をきって、そのまま浸種にはいる。(風乾や水洗いの必要は無い)
- ◎均一に種子消毒や催芽を行うため、種子袋に入れる種籾の量は、袋いっぱい詰めず余裕をもたせること。

浸種・催芽

- ・1日1回、水を交換する。
- ・催芽機利用の場合は、初日から加温しない(目安 30℃以内)。
- ・浸種に要する日数は、平均水温20℃で5日(積算温度 100℃)。
- ・播種前日に種子を取り出し、催芽処理を兼ねて水切りを行う。
- ・仕上げはハトムネ状態(幼芽長 0.5~1.0 mmで9割程度芽を切ったことを、しっかり確認する。)



床土消毒・播種 薄まきで、丈夫な苗を！

【苗の種類と播種量の目安】

苗の種類	目標葉齢	播種量/箱		育苗日数	箱数/10a
		乾籾	催芽籾		
3葉苗	3.1～3.5 葉	120g	150g	20～25 日	20～25 箱
ポット苗	5.1 葉以上	50g	63g	35～40 日	40～50 枚

・準早期(5月田植え)については育苗日数が25日～30日。

農薬	使用方法	適用病害虫	使用回数	使用時期
ダコレート水和剤	400倍液(10ℓの水に薬剤25g)を一箱当たり500ml 灌注	いもち病 苗立枯病	1回	は種時

・種子消毒とダコレート水和剤灌注を組み合わせると、いもち病に効果が高い。

積み重ね出芽

① 出芽

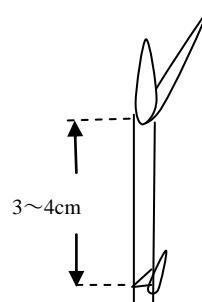
- ・積み重ね内部の温度が32℃を超えないようにする(25～30℃が目安)。
- ・積み重ね日数は2～3日間。芽が出そろったら(芽長0.5～1cm程度)、直ちに広げる。

② 緑化

- ・黒寒冷紗や黒色ラブリットで覆い、緑化を行う。
- ・第1葉が展開し、苗長が3～4cmになったら被覆資材を除去する。

平床出芽

- ・播種後、日当たりの良い水平なところに育苗箱を広げ、太陽シート等をかける。
- ・育苗箱の下に、パイプ又はりん木を敷くと、過剰の水分を早く取り除くことができる。
- ・降雨、露等で太陽シートの上に水がたまったら、早急に太陽シートをはぐり、水を取り除く。(水がたまったところは、発芽不良になる)
- ・苗長が3～4cmになったら被覆資材を除去する。(右図参照)



【水やりのポイント】

- ・過剰な水やりは根張りを悪くする。
- ・灌水は、朝に十分行い、夕方の灌水は避ける。

追肥・弁当肥

- ・田植えが予定より遅れ、育苗期間が長くなる場合や、育苗後半に葉色が落ちた場合は、硫酸300倍液をジョロで灌注する。

硫酸水300倍液 田植え3～5日前 500ml/箱

硫酸を水10ℓに溶かす量
約30g